

第3回 十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会概要

十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会を2/2に札幌で開催しました。

北海道開発局では、平成19年4月から運用を開始した十勝川千代田新水路の一部を、河川整備を進めていく上で解明すべき様々な技術的な課題に関する実験研究を行う実物大実験水路として活用しています。

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会は、実験水路において実施する実験研究に関して、河川工学等の専門的な立場から以下に関して助言をいただくものです。

- 1) 実験研究の長期計画の策定・変更
- 2) 実験研究の評価に関すること
- 3) 活用研究者の選定に係ること

このたび、第3回十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会を、札幌において下記の内容で開催しました。

【委員会の開催日時等】

- ・ 日 時：平成21年2月2日
4:00～16:00
- ・ 開催場所：かでの2.7（道民活動センター）7F 720会議室



写真-1 第3回委員会の様子

第3回アドバイザー委員会には、委員5名中3名が出席したほか、報道関係1社の取材と一般傍聴者9名の参加がありました。

事務局から平成20年度予備実験結果、今後の越水破堤実験計画について説明を行い、その後委員により活発な意見交換が行われました。

なお、委員会は公開で行われました。

【委員会の議題】

- (1) 平成20年度の実験結果について
- (2) 今後の越水破堤実験について

十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会の委員名簿

(平成21年2月2日現在)

区分	氏名	所属
委員長	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 工学研究科 教授
委員	黒木 幹男	北海道大学大学院 工学研究科 准教授
〃	岡部 和憲	国土交通省北海道開発局建設部 河川計画課 課長
〃 (欠席)	藤間 聡	室蘭工業大学 名誉教授
〃 (欠席)	山田 正	中央大学 理工学部 教授

(敬称略)

十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会では次のような意見が出されました。

(1) 平成 20 年度の実験結果について

- 流入量や越流量を的確に把握するため、水位計の精度及び流量に換算したときの精度をあらかじめ評価しておく必要がある。
- 実験前に立てた仮説とモニタリング内容の関係をより明確にすること。
- 破堤拡幅の再現等を考慮していない横断方向完全拘束である既往の実物大 2 次元実験と、横断方向拡幅過程を再現した今回の実験結果を比較し整理する必要がある。

(2) 今後の越水破堤実験について

- 縦断堤での実験時には氾濫原側の下流からの背水の影響を考慮した観測手法をとる必要がある。
- 縦断堤では破堤形状が左右非対称となるため、下流端の水位条件が変わることによって堤防の壊れ方がどのように変わるのかを把握するため、越流量等の時間的変化をしっかりと測定しておく必要がある。
- 水路縮流区間から破堤箇所までのアプローチが短かすぎるかもしれないので破堤拡幅幅に応じた堤外側流況を確認したほうが良い。
- 堤体内の浸潤状況についても設定条件として考えておく必要がある。
- 平成 21 年度の実験は流入量が $50\text{m}^3/\text{s}$ の定常状態を想定しているが、平成 22 年度の背割堤越水破堤実験の流入量の設定については、実験前までに明確にすること。
- 行政への還元の観点から、実験結果をハザードマップ等だけではなく堤防強化技術や安全度評価の向上にどう役立てていくかということ、より詳細に整理しておく必要がある。

今 後 の 予 定

- ◇ 今回の「十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会」の助言を踏まえて、十勝川千代田実験水路実験検討会にて協議し、実験実施計画に反映します。